

ものでございます。

第3条の資本的収入及び支出につきましては、本文括弧書き中の条文を改めますとともに、支出の第1款資本的支出に465万円を増額し、3億3,626万円といたすものでございます。

なお、補正の内容につきましては、寺泉配水池の流量計が設置後17年を経過し経年劣化から排水量の測定が不能となっており標準耐用年数を経過していることから、更新工事を行うものでございます。

水道2ページをお開き願います。

実施計画についてご説明申し上げます。

資本的収入及び支出におきまして、支出の1款1項建設改良費、3目資産購入費に465万円を増額いたすものでございます。

なお、更新工事費520万円を見込んでおりまして、既設予算の残分と今回補正分をあわせて実施いたすものでございます。

以上、よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度長井市各会計補正予算案に関する総括質疑

○安部 隆委員長 概要の説明が終わりました。

これから質疑を行います。

ここで、総括質疑の発言通告がありますので、順次指名いたします。

江口忠博委員の総括質疑

○安部 隆委員長 順位1番、議席番号3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 おはようございます。

衆議院議員選挙も終わり、それぞれ悲喜こもごもの中で新しい国政がこれからスタートするわけですが、この長井市においては今年度当初から都市再生整備計画の話題でずっと市民の方々も議会もその渦中にあったというような気がしております。

国の動きはまた国の動きとして、これから注視していかなければいけないわけですが、ここ12月に入って、この長井市においても、大体もう最後のほうの最終コーナーを回った感じがいたします。この長井市のこれからについては、本当に徹底した議論をこの12月議会で行っていただきたいなど。

そんなことを申し上げながら私の通告しております質問をさせていただきますが、大きく一つであります。都市再生整備事業に係る観光交流拠点施設、いわゆるかわと道の駅と呼ばれるものでありますが、これについて六つの課題を挙げさせていただきながら、市長並びに関係当局のほうにご質問いたしますので、また進言もさせていただくつもりでありますので、簡潔なご答弁をいただければ幸いと存じます。

それでは、まず1点目ですが、この施設の場所を指定、ほぼ決定と言ってもいいのでありましょう、この場所について再度ご確認したいんですが、特に留意された点など、ぜひ市長のほうにもう一回お答えいただきたいと思っております。

市民の方々には、意見交換会の中でも出ましたのですが、タスとか市民文化会館、白つつじ公園ですね、その辺に集中して整備すべきではないかと。道の駅としては、そこが適地ではないかというような声も市民の方々からは聞かれました。

しかしながら、これからの市民文化会館のあり方であるとか図書館の場所であるとか老朽化への対応であるとか、いろんな課題も同時並行して抱えているわけです。特に文化会館につい

てはまだまだ議論が足りないと思っておりますし、文化そのものに対する考え方というのをもう一回市民の方も議会でもよくよく検討すべきだと思っております、個人的には。

その中であって、この場所の指定を市長は、指定というか、現在の場所へのお考えに定められた理由を再度お尋ね申し上げます。お願いします。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まず、かわと道の駅については、観光交流センターという名称でいろいろ議論いただいているわけですが、これは都市のいわゆる再生、経済再生を図るための施設という位置づけでございます。中心市街地のほうに観光交流客をできるだけ多くの方にお越しいただいて、そして経済波及効果を目指し、それによって地域の活性化や雇用をふやすということでございまして、そういった意味では前々からお話ししていますように中心市街地であるまず国道沿い、それから長井橋からさくら大橋の間の国道沿いが一番適しているだろうということは、この事業の目的からいって衆目の一致するところだと思います。

江口委員からありましたその中での場所の設定、選定については、確かにタスの周辺、つつじ公園の周辺ということも一番その効果が高いんじゃないかというふうに思われる地域でございましたが、以前全員協議会等でもお話ししましたように、長井市では今までこういった公共施設等を建設する際に余り営業補償をして、いろんな現在実際に商売なされている事業所等に移転をしていただいて、補償して行うということは余りやってこなかったと思っております。ただし道路を切る場合、そういった等についてはこれは別ではございますが、そんなことから非常に現在営業しているところの補償するということについては多額の営業補償、用地代がかかってしまうということがまず、そういった意味

ではできるだけ更地がいいわけでございますが、更地でなかったら商売をなさっていないところの場所をやっぱり目指すべきだということがまず大前提でございました。

その後宮と小出とのバランス、そういったことも考えながら市民の委員会の皆様からいろいろご検討いただいた結果、現在の場所が一番適しているんじゃないかというようなことで、答申をいただいたような形でございました。

なおかつ、やはり信号のあるところでないのだめだということから、現在地をよりベター、今考えられる中では最適地ということで選定したものでございます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

現在の想定されている場所で学校とか保育園の問題、問題と申しましょうか、そばにあるという隣接、あるいは近接しているということについての懸念も市民の方々から寄せられているわけですが、そこについての見解を。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

以前にも一般質問等で答えさせていただきましたが、まず一番すぐそばに隣接するめぐみ幼稚園については、十分に安全性やさまざまな思いがけないそういう危険なことがないような配慮を十分にしなきゃいけない。

なおかつ、小学校についても、特に通学路としてその近くを歩いていらっしゃるお子さんについても十分な配慮をしなきゃいけないということで、事前に学校、幼稚園等に相談しながら、これは保護者も含めた全体的なまだ合意ということではありませんが、一定程度のご理解をいただきながらその点を十分に配慮すれば、特に心配はないのではないかなという今の段階での回答をいただいておりますので、これは例えばほかの場所だとしても中心市街地ではやっぱり同じような課題が例えば民家でも生ずると思

いますので、そういった意味では実際設計を組む段階、あるいは工事をする段階で事前にいろいろなその関係者の皆様からご意見をいただきながら、できるだけ影響のないような形で進めていきたいというふうに考えているところでございます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

学校施設、教育環境については、私もこの間の一般質問でも申し上げたのでありますが、南中ができてからあの周辺は商業地域として非常に発展したというか、にぎわいを見せているわけですが、それに伴って中学生の自転車と車の接触の事故というのが非常に多くなってきたんですね。にぎわいをつくり出すということは、それだけ車、人の往来が多くなるわけですから、さまざまな危険要素というのは増すものだという事は覚悟しなければいけないんだというふうに思っています。それはどこであってでもなんですが、そういった意味ではベストな選択というところまでは私はまだまだ難しい課題はあると思うんでありますが、施設を設計あるいは施工するに当たっては、本当に十分な配慮、子供たちへの配慮ということもぜひお願いしたいし、それが認知されないとやはり市民から、あるいは地域の方々から不評を買ってしまって、足が遠のくということにもなりかねないということも考えると、本当にこのところは大きな予算を使ってでも子供たち、あと周辺住民の方々の安全性についてはぜひ配慮願いたいと思っておりますが、2番目の、これ最上川の河川緑地公園の整備を断念した理由。これはせんだっての一般質問でも市長がお答えになっておりますが、再度確認のためにお聞きいたします。

これは現在、船通し水路であるとかフットパスはもう整備されているわけです。当初、この河川緑地公園の構想をお聞きしたときに、大体の懸念というのはこれからの維持管理費用をど

うするかというようなところでは、議会全体としても不安な課題として取り上げている議員が多かったのでありまして、私もその一人でありました。

しかしながら、今整備されている、さっき申し上げた船通し水路であるとかフットパスについての利用度、これから市民の方々にあそこを使っていただく、活用していただくに当たって、なかなかその導入施策がない中であって、そこに誘導できるような公園というのはちょっと的確ではないかもしれませんが、そういった環境整備ということはぜひ必要だと思っておりました。

その中であって、今回河川緑地公園を事業から外して、何とか国のほうにそここのところの施工も含めてできる限りお願いしていきたいという市長のお考えもお聞きしたわけですが、もったいなかったなというふうな気もするんですね。維持管理費用をかけずに済むような駐車帯であるとか、そういったものもぜひ整備されてはいかかかなと思っていたものですから残念だったんでありますが、再度この断念の理由というのを、端的に短くて結構ですからお答えください。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 非常に残念だという思いはありますが、やはりこの観光交流センターといわゆる船通し水路や藩の船着き場、民間の船着き場あわせた、道路側ではタスとこの観光交流センターの間は距離はあるわけですが、河川でつながってるということがそういう意味では非常に普通の道の駅と比べれば特徴があってもおもしろいのではないかとというふうに当初の計画としては上げたわけでございますけれども、しかしその目的はあくまでも長井の中心市街地を含めたまちの活性化に資する施設ということでございますので、河川については江口委員がおっしゃるようにフットパスなどをうまく活用する、

あるいはそういった歴史的なさまざまな整備された場所、これについてはまた違った形でやっぱり誘導策を考えていくと。ほかの委員の方の意見などから、やはり過去の河川公園の管理状況が余りよくなかったと。これはやはり15年以上に及ぶ行革をやってきたわけですから十分な予算もかけてこれなかったんですが、それだけではなく、やっぱり維持管理については今後の反省材料だということから、目的としてはその河川緑地公園があれば一番いいわけですが、なくとも何らかの形で観光交流客や市民の皆様にご利用いただくにはこれでも十分だという判断から、できるだけ多くの議員の皆様からご理解をいただくためにそういった河川公園の部分をおこのたびは整備をしないで、まず必要最小限でやっていこうということで今回考えたところでございます。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 今、必要最低限でという言葉をお聞きしたいんですが、今回この河川緑地公園の費用1億6,100万円という金額が、これ今後どのように処置されるのかちょっとお聞きしたいんです。例えばこれを、この1億6,000万円を新たな提案事業として何か国のほうに提案されてお使いになるのか。

また、この事業については断念した分の予算としてあら町の歩道整備のほうに若干振り向けられておりますけれども、これはあら町の石畳舗装170メートルが3,300万円余りあるわけですか、これは当初の予定1億7,000万円ほどの予定事業を前倒してあら町のほうに3,300万円をつけたというふうなことで理解してよろしいのか。

あわせて2点お聞きしたいんです。この最初の河川緑地公園の1億6,100万円はどこに行くのかということと、あら町につけた3,300万円は当初予定していた事業1億7,000万円のうちの事業なのか。そのところを教えてください。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まず、ことしの春にこの全体の事業費、これは提案事業でアバウトで19億1,000万円ということで基本的なこの事業の考え方を国から承認いただいて、概算で19億1,000万円の承認をいただいたということでございまして、それ以内でおさめるというのがまず前提でございます。

今回、江口委員からありました1億6,100万円が緑地公園分の予算でございましたけれども、これについてはあくまでも概略でございます。この部分については、まず基本的には削減したほうがいいのかというふうに思っております。ただし、先ほどございましたように、より小学校とかあるいは幼稚園付近の住民に対する、民家も若干ございますので、そういった安全対策に使うべきだということで、これらをそちらに振り向けることも可能だとは思いますが、やはり実際実施測量や基本設計が今回の補正でお願いしている部分でございますが、来年度今度は実施設計、その際に事業費というのは決まっておりますので、その中で1億6,100万円が全て不用額にするのか、やっぱり少しちょっと周りのことを配慮して若干ふえるのかということももう少し確実なところになってからでないかと何とも言えませんが、基本的にはやはりその部分は削減したほうがいいのかというふうに考えております。

なお、石畳については、当初から予定しておりましたものを後年度にする予定だったのが今年度予算をせっかくだけついていたので、前倒ししてさせていただくというものでございます。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。わかりました。

1億6,100万円という当初の予算、事業費ですね、これはもしも減ることがあれば、市長が

前々からおっしゃっていたこれから市債の発行の返済、年額約5,000万円ぐらいですか、20年というふうな、アバウトでありましょうが、そんなお考えも示されていた中では当然1億6,100万円が減りますとその分も減っていくということになりますので、これからの財政運営等々を考えますと、その辺はフレキシブルに1億6,100万円をぞくっと減らすのか、それともおっしゃるように安全対策とかほかのところでの流用ということも可能であるんだということで、これはこれからの議会の中での議論になると思いますが、結構アバウトというか、アバウトじゃない、フレキシブルな考え方と言ったほうがいいですね、そういうことで進められるということはよくわかりました。

それで先ほど基本設計にこれから入って、その実施設計に入る計画であるわけですけども、この実施設計の前に発足するこの検討委員会というのがあるんだということは、まち・住まい整備課長からも以前の答弁でも確認をしておりますけども、この検討委員会のメンバーは現在のところどのような構成になるのか。イメージがまだわからないもんですから、ちょっと教えていただければと思います。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

今後の手順としては、調査測量、基礎調査を行いながら検討委員会を発足しまして、それぞれの計画や課題について意見を伺いながら基本設計をまとめていく予定としております。

検討委員会としてのメンバーでございますが、まだ正式には選定をしておりますませんが、かわまちづくり計画と関係が深いことから、かわまちづくり推進協議会、また周辺の地区長さんをはじめ観光振興計画策定委員、観光協会、NPO、さらに関係機関、関係団体や有識者にも入って

いただきたいというふうに考えております。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 何人ぐらい予定されてますか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

委員会の人数についてはまだこれから検討いたしますが、昨年度の検討委員会では16名の市民各層から出席いただきまして検討していただきましたので、20名前後になるのではないかとこのように考えております。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

市民の方々の意見というのがどこまで反映されるかということが、これからもう一つ注目しなければいけないことになろうかと思えます。

この検討委員会の中では、建物とか周辺設備の構成、グレードの具体案、維持管理費用とか運営費用を算出するという事なんですね、基本設計の段階では。そうしますと、この検討委員会のメンバーのご意見、お考えというのがかなり大きく反映されて設計書が出てくるんだろうなということは想像にかたくないわけですが、今の想定されている場所が1万4,000平方ぐらいの面積があるわけですけども、検討委員会によっては、例えば私はこのところはまだ若干整理がつかないんですけども、どんなこれからの施設計画が考え、想定されるのかによっては、やはり敷地面積というのはそこから決まってくることもあるのかなというようなことも考えてるんです。

そうしますと、今の想定されている1万4,000平方メートルの場所の面積が必要なんだということがちゃんとしっかりとこちらの腑に落ちるようにするにも早急に検討委員会を立ち

上げて、いろんな意見交換をしていただかないといけないかなと思うんですか、この検討委員会の立ち上げの時期、この辺はなるべく早いほうがいいと思うんですが、幾らぐらい予定されているかお聞かせください。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

この予算の今上程しておりますので、承認得た上で手順になるかと思いますが、1月には人選をいたしまして、第1回の開催を行いたいというふうに考えております。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 先ほど人数は20名前後かなというようなこともお聞きしましたけども、ぜひ男女比であるとか年齢であるとかそういったことも十分に考慮して人選していただきたいなと思いますので、よろしく願います。その辺はいいですか、男女比、年齢比。年齢比と言ったらおかしいですね、年齢構成等々も考慮していただけるということでしょうか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

これから人選するわけでございますが、なるべく偏った年齢構成、男女にならないように、老若男女の皆さんにぜひ参画していただければというふうに思っております。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 それでは、次に今後附帯してこの建設される各種施設は市民ニーズを十分考慮すべきと思うがいかがかというところで質問をさせていただきますが、以前、市長は農家レストランであるとか農産物の加工施設であるとか、そういったことも将来は考えたいのだという仮の提案といいましょうか、市長の夢と

いうふうに理解しておりますが、そんなこともおっしゃられました。

これは先ほども市長も答弁いただきましたけれども、中心市街地、特に本町の街路事業が始まった中であっては、そこと併用させながら中心市街地へのにぎわいづくりに寄与したいのだという、しかも経済効果もそこで見込めるものとしてやっていきたいんだということでありましたけれども、やっぱり民間の投資意欲が沸かないことにはどうしようもない。今までの公共施設、公共事業というものは、ややもするとどこか一部の事業者、業者さんへの利益供与になってしまったりそんなイメージが強くて、公共事業というものはクエスチョンマークがついてきたような気がするんですが、大手さんでなくても普通の個人商店であっても、これから起業したいという方にとっても何かそそられるような公共施策がこれからは必要だと私は思っているんですね。

そんな中であって、先ほど申し上げた施設整備というのは各種のこれから国の補助事業等ともいろいろ探りながらということも前提としてあるわけですが、見通しはどんなものなのか。政権もかわるでしょうし、なかなか難しいことだと思うんですが、現段階でいいんですが、そういった農産加工施設であるとかさまざまなレストラン施設であるとか、そんなことに対応できる補助政策というのはありますか、今。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

前にもお話ししましたように、今回の都市再生整備事業で観光交流センターで機能として持つことができるものは、お手洗い、無料休憩所、そして道路案内、観光案内所、そして直売所等の施設、農産物の直売所、それから物産館等についてもこれは可能であると。ただ、さまざまな理由づけがきちんとできれば、飲食等ができる、そういった機能も持つことができるかと思

っております。

ただ、この部分については、具体的に基本設計を組んだ段階でやはり国等とヒアリングをして最終的に決定するということになるかと思っております。それができない場合は、農水省、それから経済産業省の6次産業化の事業でいろんな補助事業がございます。ただし、それについては市が事業主体となれるものではございませんので、したがって例えば農家レストランみたいなものを別途つくるとかいう場合は、市のほうでどういう形で募集するかですけれども、公募みたいな形でできれば市内の農業者、農業者団体あるいはそういったことを事業をやりたいという方の公募によって張りつく中身についてもいろいろ検討いただいて、そういった事業を同時にオープンできればなおありがたいなというふうに思っているところでございますが、この辺については今回上程をさせていただいております調査基本設計、そして実施測量の中で前提条件としていろんな場合を想定しながら、これはコンサルタントをかけてたたき台をつかって、そして検討委員会の皆様からいろいろ意見をいただいて性格づけを決めていくと。それを国のほうに対してこういう事業は認めてもらえるかどうか確認しながら、今回の都市再生整備事業でできる内容を確定していくと。

検討委員会の皆さんから、いや、それだけではなくてもっと何か、例えばおそばを食べさせるところをつくったらいいんじゃないかとか、あるいは洋食のレストランみたいなもんもあつたほうがいいんじゃないかとかという意見が出たときはどうするかということで、いろんな事業を調べながらどういうやり方でできるか、そういったことを模索したい。今の段階では、まず確実にできる部分と将来こういうものがあつたほうが良いという部分を総合的にまずメニューとして上げて、これから精査して決めていかなければならないと考えております。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

これからの課題たくさんあるわけでありましたが、商工振興課長のほうにもちょっとお聞きします。

今回の施設は、経済効果をいかに促すかということには本当に注力しなきゃいけないことなわけですけども、外から来た方々にそこでお金を落としてもらうということはもちろんなわけですけども、じゃ市民の方はどうなのかということ、当然市民の方々にもそこには足を運んでもらうような施設でなければいけないということなわけですよ。そうしませんが、やがてこういったブームというのはだんだん斜陽になっていくということはこれ十分考えられるわけですので、最低限は市民の方々にもきちっと利用し続けてもらえるような施設整備ということは必要だと思いますが、商工振興課のほうからは、今、本町あるいはあら町、大町、栄町含めて5商店街との関係性の中で、あそこへでも当然経済効果がこれから出るような施策を年次的にもやっていかなきゃいけないでしょうし、それで今度新しくできると言われるというか、想定されている道の駅についても、当然経済効果は持っていかなきゃいけない。そのときに、市民の方々へどのようなメッセージなりアプローチを仕掛けられていくのかぜひお聞きしたいんですね。

といいますのは、6次産業化の話は前から出ています。第1次産業、農業者に対してもうちょっと所得が上がるように6次産業化という名前が挙がってきましたけども、この第3次産業というところ、商業とかサービス業ですね、そこへのいろんな施策が今までちょっと不十分だったろうなというような気がするんです。いろんな方々の起業意欲ということは端からは本当に言われているんですが、なかなか起業意欲が高まってこなかった、高めるような施策も私は少なかったのかなというような気もするんです

ね。

そういった意味で、今回道の駅について、その施策も含めて商業、サービス業関係の施策支援、支援的な施策も含めてお考えをお聞きしたいんですが、まず市民の方々に今度できるであろう道の駅のPRをどのようにされていくか。市民の方々にぜひ足を運んでもらうためのPRを、PRと申しましょうか、どのようなメッセージを市民の方々に伝えようとしているのかちょっとお聞かせ願いたいので、わかりますか。私、言いながら自分でもわかんなくなっちゃうんですが、市民の方々に向けたPRのイメージだけでも教えてもらいたいです。

○安部 隆委員長 竹田利弘市街地活性化主幹。

○竹田利弘市街地活性化主幹 本町通り、駅前通りの二つの街路事業と第3次産業の活性化と、あとかわと道の駅との関係についての考え方についてお答え申し上げます。

第3次産業につきましては、1次産業、2次産業以外の全ての産業が含まれますが、特に商業とサービス業を中心にした関係との影響についてお答えしたいと思います。

中心市街地の活性化につきましては、現在経済産業省の診断・支援等助言事業を受けておまして、来年度以降本格的に策定作業に入りますので、そのときにもう少し詳しく検討はいたしますが、中心市街地の活性化のためには各商店自体の魅力を高めることが基本として必要だと思います。少ない店舗数では集客力が弱いいため、商店街としていろいろな業種の店舗が立地することにより全体として集客力を向上させることが必要となってきます。

また、観光客にもかわと道の駅は目を向けるわけですが、ただ観光客だけでなく、市民の方にとっても有効な施設となるように考えていかなければならないと思っております。

そのときに、かわと道の駅が若干中心街から離れたところなんですけども、回遊移動距離に

つきましてはおおむね今までのいろいろな実験結果ですと500メートル前後が回遊距離とされております。この距離は、魅力的な店や途中に立ち寄れる場所があるとより一層延びるとされております。本町や駅前通りの街路事業により各商店が魅力的な店づくりに努力し、さらにかわと道の駅が魅力的なスポットとなることで商業的には市街地の回遊づくりとまちの活性化につながり、市民にも有益な施設になると考えております。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

それでは、商工振興の部門からもかわの駅、かわの駅と言っていいんでしょうかね、道の駅って、やはりかわと道の駅でいいですか、かわと道の駅の施設というのは重要だというふうに理解してよろしいですか。

○安部 隆委員長 竹田利弘市街地活性化主幹。

○竹田利弘市街地活性化主幹 お答え申し上げます。

中心市街地の活性化のためにも、かわと道の駅は重要なスポットとなると認識しております。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

そうしますと、今、同時にこれから中心市街地活性化基本計画の策定にも向けてスタートを切ってるわけですけども、そこで前から議論になっているのはまちづくり会社であるとかタウンマネジャーの人材、これをどうするかというようなこともあります。ほかの自治体ではタウンマネジャーは使わないでやってきたとか、まちづくり会社が入らなくても行政独自でやってきたなんていうことも例として聞いておりますけども、これからこの長井市ではまちづくり会社をつくんなきゃなというのは市長のお考えでも伺っておりますが、これ年次計画も含めて、これからの予定をちょっとお聞かせ願いたいと思います。これ市長でいいです。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

中心市街地活性化基本計画をことしと来年で策定して、26年度に国の認定をいただく目標で進めております。その際に、やはりまちづくり会社は来年度つくらなければならないと思っております。今まだ正式には商工会議所とか関係といますか、協力いただける団体とは正式には話しておりませんが、ぜひ市も商工会議所も、あるいは民間企業も含めた商店街とかそういったところと一緒に一つひとつつくってほしいと思っています。

その性格でございますが、一つは前々からありましたように、タスを活性化させるためにいわゆるコンベンションビューローみたいな機能も持たせたらいいんじゃないか。あるいは後ほど観光振興課長のほうからもあるかもしれませんが、観光地域づくりに資するためにプラットフォームという考え方があるんですね。例えばビジネスホテルに泊まったお客さんがお昼ちょっとどこかで食べたいんだけどといったときに、そのビジネスホテルで長井市ではこういうところの食べるおいしいところがありますよという紹介したり、今度はお昼を食べたときに今度は何かお土産を買いたい。そうしたらお土産はこういうところのいろいろなものがありますよということで連携をとって、市民はもちろんですが、市外から、あるいは観光客にそういったことを連携とって進めると。そういったもののプロデュースも含めたいろいろな機能をこのまちづくり会社に持たせるべきじゃないかと。

通常のまちづくり会社については、例えば本町の街路事業の中で本町の中に飲食機能が弱いから、こういうおそば通りみたいなものをつくろうとかラーメン通りつくろうとかいうものとか、あるいは楽しみとして鶴岡のようにまちなかシネマみたいなものをつくろうとか、そういったプロデュースをするほかにそういったことも考

えられるんじゃないかと。そういったものをぜひ来年度あたりに何とかスタートできないか、これから今回の予算が通りましたら今度は具体的に進める可能性がありますので、やっていくべきじゃないのかなと、早急にしないといけないと思っているところでございます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

昨年、秋田県の大仙市のほうにも市民未来塾の中での研修だったんですが行ってまいりました。その中では、活躍されていたのはタウンマネジャーですね。非常に汗をかかれておりまして、大仙市も課題はたくさんあったんですが、やっぱり人が人を動かしていくということが大仙市では着実に一步一步計画の推進に寄与してたんですね。

まちづくり会社という会社組織があっても、なかなかこれはマネジメント全般、経営感覚を持って、経営戦略を持ってやるわけですけども、それを動かすのはタウンマネジャーの力量だったですね。だものですから、ぜひまちづくり会社と同時にタウンマネジャーと言われる人材の育成、発掘と言ってもいいかもしれません。これから育成したんでは遅いのでありまじょうし、どんな方をここに据えるかということもある意味で長井市のこれからの進み方のスピードにも左右するかなという思いがありますので、タウンマネジャーについてちょっと一言市長からお考えをお聞かせください。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 タウンマネジャーについては、やはり先ほどのまちづくり会社もどういう人材を確保するかということが一番難しいと言われておりまして、そういった意味では例えば商店街の中から、あるいはNPOで今活躍されている中から等々が考えられるんじゃないかなと。やはり1人2人ではなくて、ある程度複数のタウンマネジャーとして動いていただく方を確保

しなきゃいけないというふうに思っておりまして、長井市の人口とか商業集積の規模を考えた場合に、タウンマネジャーとしてどのような活動が考えられるか、またその活動が継続的に行われ、かつ効果を上げていくことが見込めるか。そしてその費用の捻出、そういったことも含めてタウンマネジャーというのは非常にキーマンになるわけですが、いろんな方面からまちづくり会社を含めて一番肝心の部分だなと思っているところですので、ぜひこの辺は江口委員からもいろいろご提言とかご意見などもいただければありがたいなというふうに思っているところでございます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

ご提言といってもノーマネジャーみたいなものですからなかなかできないんでありますが、今このかわと道の駅の話と本町の街路、昨今新しく駅前通り、通称でいいですね、駅前通りをずっと街路事業にしようという協議会が立ち上がったということでもありますけども、そんなに簡単に、このところは県の採択、国の採択などはそんなに簡単には受けられない。時期的なことだってそんなに早くはないんでありましようが、ただ、地域の方々の希望としてそのところは強く行政側としても支援をしていってほしいと思うんですね。

これは例えば人口が減少しますということは内閣府でもこれはもう発表もしてますし、こちらもそれなりの人口動向であるとか経済の状況の推移、これからこうは右肩上がりにはいかないだろうということは大体想定できますが、だんだん下がっていくのをこれを人口も含めてこのカーブを、下がっていくカーブをこうじゃなくて少しでも緩やかにしながらなるべく平らにしていって、循環させていこうというのがこれからの課題だと思うんです。ですから、将来的にこれが人口が減る、あるいは税収が減るとい

うことを前提にしてしまったんでは、なかなか地域の方々の前途多難であるということも大きく据えて、夢もあんまり語れなくなるような思いがあるんですね。ですからこの下り坂というのをなるべく下らないように、下らないようにというか、真面目な話ですけども、下り坂というのを下らないようにずっとなるべく緩やかにしていくためにも、やはり経済再生ということはこれは自治体に課せられた課題でもあると思いますし、そのところは駅前通りの街路事業、本町の街路事業、そしてかわ、道の駅あるいはこれからの議論であります公園、花公園、駅前、これはわかりません。とにかく何かしらの施策を打っていく必要があると思います。

そして、今、観光振興計画が策定中でありますけども、観光振興課長にお聞きしたいと思うんです。今の観光振興計画をこの施設整備の計画にどのように反映させていくのかということを一応お聞きしておきます。

というのは、観光振興計画の作業部会も傍聴させていただいておりますけども、長井にはなかなか売るのがないということが観光の課題として取り上げられているようでありまして、これからできる施設について施設の中でどんなものをお客様方に提供していったらいいのか。観光振興計画の作業部会の中で出ている提案なども含めて、ございましたらぜひお聞かせください。

○安部 隆委員長 平 正行観光振興課長。

○平 正行観光振興課長 お答え申し上げます。

観光振興計画の策定委員会は11月30日で3回目終了いたしました。その中で出てきたのが、まず市民が自慢できる観光のまちづくりをすべきだ。また、長井市の観光主体はまちなか歩き、ここにチャンスがあると。そしてまた売り込みとかという部分に関しましてなんですけど、売るもの、観光する場所、名所、これはほかに引けをとらないものがいっぱいある。ただ、観光客

が入ってこないために、残念ながら名物なんかが出ない。この部分をやっぱり改めるべきだとして、あと、さきに市長が申し上げておりましたが、観光地域づくりプラットホームという考えが大きく出てまいりました。プラットホームというのは組織でございますけども、やはりまちなかに回すために経済を回すことを目的に組織をしたらいかがかと。この一連の業務、地域内に自立的に行う。もちろん観光協会、行政、地場産、さまざまな商店街が入りますけども、このまとまって経済を回すことを目的に組織をする。商品をつくって集客を図って販売をして、そして来訪者をもてなす、この三つの機能を地域の中に一元化してしまおうと。こうしていかないとだめですよということのお話です。

地域みずから商品をつくり出す。ですから行政だけ、観光協会だけ、NPOだけではなく、一堂に会して商品化をしましょうということです。地域内の人と組織のコーディネート役を担う事業主体がこのプラットホームでございます。もちろんその中にはさまざまな方が入っている想定をいたしますが、これが一番最重要課題ではないかというふうに考えております。以上でございます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

長井の観光客の方、年間62万3,000人というふうなデータが22年度出ていますけども、県全体の1.4%ということで、非常に低いなど。通っている方はいらっしゃるはずですよ。国道13号線、米沢市のほうからずっと入ってこられて、287号線を通して庄内というふうな方々もたくさんいらっしゃる中であって、ここでとまってくださる方がまだまだ少ないということももったいない。ある意味ここに伸び代が少しあるかなという、交流人口の伸び代がここに期待できるのかなというふうなところもあるんですが、一方で観光客と言われる方々の半

数は地域の地元の方々というふうなカウントもされてる中であっては、地域の方々にもきちっと認知していただけるような観光施策でなければいけないだろうというふうな気もしています。

先ほど申し上げたように、新しくかわと道の駅ででき上がる施設には、当然地域の方々も足を運んでもらえるような公共性を持った施設づくりということも考えなければいけない。そうでもありますし、観光施策の中にあっても地域の方々にも何遍でも楽しんでいただけるようなことを考えなければいけないわけですが、そこに当たって、では観光施策は観光振興課だけではこれはだめで、あるいは観光協会だけでもだめで、物産がかかわってきますと地場産業振興センターであるとか商工会議所であるとか、そういったことと連携も当然これは重要になってくるわけですが、現在の地場産センターであるとか商工会議所であるとか、そういったことの連携というのはイメージはどんなふうにお持ちか、ちょっとお聞かせください。

○安部 隆委員長 平 正行観光振興課長。

○平 正行観光振興課長 お答え申し上げます。

かわと道の駅のことということでよろしいでございますか。これはまち・住まい整備課長も申し上げておるとおりですが、1月からの検討委員会のほうに諮られると思います。

ただ、やはり地場産は物産のプロフェッショナルでございます。観光協会は観光業務のプロフェッショナルでございます。多くの方々にご意見をいただきながら、よりよいやっぱり施設にしなければならない。また、観光案内所等に関しましても先刻の例をいただきながら、よりよいものとしなければならないと考えています。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 いろんな各界各層からの協力を得て、これからの計画をつくっていきなさいいけないことはもうもちろんであります。最後にこの事業は全庁的な取り組みをしていか

ないと多分だめだろうと思います。その中にあって、市長の耳には余り入ってないことかもしれませんが、あえて若干苦言を申し上げますが、職員の方々は温度差はかなりあるんですね。担当になってる方々はかなり深刻な課題として一生懸命取り組まなきゃいかんというテンションもモチベーションも上がっているんであります。しょうけども、それ以外のところでは意外と冷静に受けとめられててという、首をかしばられる職員の方々もいらっしやいます。

けども、これはやっぱり縦割りで考えてはいけなくてありまして、例えば先ほど来出ています小学校の、あるいは保育園の近くだということを考えるときに、ではその対応をどうするかというと、当然教育委員会であるとかほかの関係課のアイデアであるとかいろんな進言も受けながら計画づくりをしていかなきゃいけない。そう考えますと、縦割りであってはいけないことはもう明々白々なわけでありまして、そのときに全庁的なこの職員の共通理解と意欲というのはぜひ高めてもらいたいんであります。そここのところは市長の決意と申しませうか、どんな手法でと行って質問してしまうとなかなか難しいかもしれませんが、市長のお考えをぜひお聞かせ願いたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

過去に例えばでございますが、集中改革プラン、平成18年から22年の5年間の中で全職員に5回ぐらいに分けて3年間ぐらい話し合いをしたことがございます。今回の事業についてはそういったことではなくて、やはり私が直接職員にこういうふうには長井市では考えているよと。どうだということよりも、まず市民に説明をすることが先だというふうに思っています。

それで各地区、6地区まず先にやったわけでございますが、その後40カ所でさせていただくと。その際には、各職場から管理職と職員、2

名ないし3名ずつとそれぞれの担当を決めて一緒に入ってもらおうということを行います。それだけではちょっと不十分だと思うんですが、やはりまだ今のところはこの都市再生整備計画というのは実際動いてないわけですから、中心市街地の活性化のプロジェクトはもうかなり動いています。あと、子育て支援のプロジェクトも動いている。そして第5次総合計画の策定本部、これもかなりの職員が一緒になってやっております。それに未来塾。それから、今度は新たに雇用の対策のためのプロジェクトといろんなものが出てありまして、残念ながらことし緒についたばかりでございますので、やっぱり今の段階で温度差があるのはしょうがないかなと。私も直接全職員約290、300名近くと話をやったとしても、1回聞いただけでは理解できないと思っていますので、あらゆる機会を通じて認識を一緒にしていきたいと。

まずは市民との意見交換会に管理職と職員が2名ないし3名でまず40カ所今やっている途中でございますので、市民がどういうお話をなさるか。また、市長がどういうことを市民の皆さんと話しているのかということも直に聞いてもらうということがまず先決かなと。来年度になりましてから、ぜひ今度は職員と具体的に進めば、中心市街地の活性化基本計画、あるいはこれからの例えば安心安全のまちづくりとか第5次総合計画とか福祉、医療とかそういったことも含めて、いろんなことで意見交換する場を来年はいっぱい設けていきたいと思っております。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

いろんなプロジェクト、計画づくりが各課それぞれ課題を持って取り組んでもらっていることはよくわかります。これをまた横断的に横の連携をきちんととりながら、第5次の10年間、これ取り組んでいっていただきたいんですが、直近

では25年度に実践型地域雇用創造事業、これ大きな事業、手を挙げようとしているわけですが、ここでの成果というのはそれこそかわと道の駅、あるいは第5次の総合計画の特に経済面においては大きなこれは効果を生むことができるんだと思います。それについて、最後ですけども、ちょっとお考え、あるいは期待も含めてちょっと市長のほうからお答えいただければと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 簡潔に申し上げます。

この実践型地域雇用創造事業というのはソフト事業でございまして、3年間でさまざまな事業ができるということで、その雇用を生み出すための仕組みづくりの部分もできる事業でございまして、それと今回の都市再生整備事業、中心市街地の活性化事業、あるいは製造業とか農業の6次産業化を含めて、さまざまなそういったソフト事業を行っていくことによって雇用をふやしたいというものでございます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。終わります。

赤間泰広委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位2番、議席番号1番、赤間泰広委員。

○1番 赤間泰広委員 おはようございます。

通告書に従いまして、総括質疑をさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

私の質問は、道照寺平スキー場のアンバーリフト使用料についての1件でございます。下のほうに(1)、(2)と小さい項目がありますがけれども、一緒の質問でございますので、一緒に答えていただいても結構でございます。

それから、市長お一人に答弁を求めておりますけれども、もし関係者の方のご意見などまだあれば、そちらのほうの方にご指名していただいても結構でございます。

この道照寺平のスキー場と申しますのは、本当に地域の皆様の協力をいただきまして管理運営するものでございます。まずもって、管理運営される方々の皆様に感謝と敬意を表したいと思っております。

早速質問でございますが、道照寺平スキー場のアンバーリフト使用料についてということで、(1)土日、休日の家族での利用の際は無料にするべきではないかということと、関連してまいりますので続けてこの無料にすることにより市外からの利用者、観光客などもふやせるのではないかと質問でございます。このことについて、市長の所見をお伺いいたします。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まず、道照寺平スキー場については、平成23年度にリニューアルオープンしたわけでございます。これはもちろん地元平野地区の皆様の全面的なご協力をいただき、またスキー連盟等いろんな団体の方からご協力いただいてオープンしたわけでございますが、これによりまして白山森スキー場は閉鎖ということになりましてこれは残念でございますが、結果としては初級者から上級者まで滑れる、楽しんでいただけるいいスキー場に生まれ変わったなと思っております。

親子の触れ合いということからもスキーはうってつけの冬季スポーツでありまして、そういった意味では親子、家族での利用の場合、何らかの特典をとという赤間委員のお考えも理解できる場所ではございます。

ただ、一応公共施設の利用ということについては原則が何点かございます。

まず、第1点目といたしまして、公共施設、